

N E W S R E L E A S E

2012年5月9日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2012年3月期 決算概要

【2011年度の概況】

国内の建設機械市場（国内は年度）は、東日本大震災の復旧・復興向けの需要などが旺盛で、主にレンタル向けを中心に伸張しました。油圧ショベルの2011年度の総需要は、重機ショベルで前年比6割弱、ミニショベルで3割強増加しました。リーマンショック前の水準よりは低いものの、リーマンショックが発生した2008年度水準まで回復しました。

海外の建設機械市場（海外は暦年）では、世界最大の油圧ショベル市場に成長した中国の需要が、金融引き締めなどの影響により低調に推移し、前年比で微増横ばいとなりました。一方、東南アジア諸国は引き続き堅調な需要に支えられ、前年比で4割程度増加しました。米国市場も、本格回復という水準ではないものの、順調に回復傾向を示し前年比で約5割増加し、2008年の90%の水準まで回復してきました。一方、金融危機に揺れた欧州市場は、前年比2割増加しましたが、依然として不透明感が強い状態が続いています。

世界総需要を概括すると、重機ショベルで28万台（前年比約17%増）、ミニショベルで12万台（前年比約27%増）となり昨年に引き続き前年比増となりました。

コベルコ建機グループは、東日本大震災による被害でサプライチェーンが寸断され、部品不足から国内外で一時的に生産が休止するなどの影響を受けました。上期半ばからは、徐々に部品供給が回復し、日本や東南アジア地域などの好調な需要に対応するため、需要が減退している中国を除き、各拠点でフル生産体制で対応しました。

「中期経営計画<2010～2012年度>」の2年目となる2011年度は、グローバルな事業構築の為に計画を着実に遂行しました。『中国事業の更なる成長』に向けて生産能力を年間25,000台体制に引き上げると共に、『東南アジア地域での収益拡大』に向け、タイの生産能力も増強しました。『インド事業の基盤確立』に関しては、急激なルピー安への対応や現地調達比率を高めていくことなどに課題が残るものの、販売の増加に合わせ、順調に生産水準を拡大しつつあります。建設中だった五日市新工場も完成し、グループ全体の生産および開発の最適化を担ったグローバルエンジニアリングセンター（以下：GEC）も始動します。五日市工場は予定通り2012年5月22日に開業式を迎えます。本年、中期経営計画最終年を迎えますが、グローバルな事業活動の更なる発展を目指し、総仕上げを行なってまいります。

東日本大震災の影響、中国市場の変調、急激な円高などがありましたが、グループ一丸となった取り組みにより、2012年3月期（2011年4月～2012年3月）の業績は、以下の通りとなりました。

<2012年3月期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	当期(2011年度)	307,159 (1.9%)	23,200 (17.7%)	22,865 (13.1%)	4,488 (35.1%)
	前期(2010年度)	313,143	28,186	26,303	6,920

連結の売上高は、国内事業が990億円（前年比+17.8%）、海外事業が2,080億円（前年比9.2%）、連結売上高の海外比率は67.7%となり、連結で海外の売上比率が減少しました。（海外売上高比率 09年：63.8%、10年：73.1%）

【2011年度の事業別状況、及び足下の状況】

国内事業

2011年度の国内におけるコベルコ建機グループの油圧ショベル販売台数は、震災復旧・復興需要に連動して引き合いが活発化したことにより、重機ショベルは前年比5割、ミニショベルは3割程度増加しました。引き続き、国内の震災復興需要には最優先で対応してまいります。

中古車市場は、稼働機のストック調整が進んだことによる中古車の供給不足や、最大の中古ショベル輸出先である中国市場の変調、円高による輸出環境の悪化により低調に推移しました。

ミニショベルを生産している大垣工場では、先行して広島で実践した生産性3割向上活動を展開する為、一部ラインの改造、建屋の新設工事を行い、1月から稼働を開始しました。昨年6月に建設着手した五日市新工場も本年5月には開業し、フル生産体制に入ります。世界最高水準の生産性とコスト競争力を持った世界最強の生産拠点にしていくと共に、グローバルな開発・生産体制の司令塔として、GECも活動を開始します。

中国事業

2011年の重機・ミニ合わせた油圧ショベルの総需要は約17万台（前年16万台程度）になりました。リーマンショック後も右肩上がりの成長を続けてきた中国市場ですが、金融引き締めなどの影響から、中国メーカーの成長スピードもやや鈍化し、外資系は前年比マイナスとなるなど、総需要は前年比微増となり減速傾向が顕著になりました。コベルコ建機グループは、ミニショベルが前年比増と健闘したものの、市場全体の低下の影響を受け低調に推移しました。

景気がいつ頃回復するかは不透明ですが、エネルギー・鉱山開発が中長期的に進展すること、また、所得格差是正に向けた内陸部や農村部の開発、都市部においても下水や通信インフラなど、各分野での開発が進展することなどから、成長スピードは従来よりも安定的に推移すると想定されます。

海外事業（中国事業を除く）

中国を除く海外においては、CNHとのグローバルアライアンスに基づき、当社の主担当地域であるAPACエリアを中心とした事業展開に取り組みました。

APACエリアのうち、東南アジア地域は、全体として順調な自立的成長を続けており、前年比、4割程度の需要増加となりました。リーマンショックのあった、2008年の水準に比べて重機ショベルでは2倍強に需要が拡大しています。東南アジア全域の重機ショベルの総需要は2010年に引き続き、日本の総需要を越える約2万3千台となりました。今後も多少の変動はあるものの順調に成長軌道を歩むものと期待しています。

昨年の東日本大震災によるサプライチェーンの寸断の影響で、海外生産拠点への部品供給にも影響を及ぼし、東南アジア市場の伸びに見合う販売数量の伸びを示すことは出来ませんでした。前年比2割程度の販売数量増となりました。東南アジア地域は、引き続き強い需要が期待できるため、東南アジア地域の生産拠点であるタイ工場『Thai Kobelco Construction Machinery Ltd. (タイ コベルコ コンストラクション マシナリー)』では、生産能力の増強にも努めました。2012年中に、供給力不足を解消する為、2010年の生産能力の倍強になる、年間5,500台体制に増強する計画です。

インド現地法人『Kobelco Construction Equipment India Pvt.Ltd. (コベルコ コンストラクション イクイPMENT インディア)』の現地生産工場は、昨年4月より本格稼働を開始しましたが、現地調達部品を取り込みながら徐々に生産水準を上げてきています。

着実な成長を続けるアジア地域でのプレゼンスを向上させていくことが当面の経営課題となります。

一方、CNHの担当エリアである、米国、欧州は新興国に比べ、厳しい状況が続きました。

【2012年度以降の見通しと今後の重点課題】

国内は、東日本大震災の本格的な復興需要などから、レンタル向けなどを中心に引き続き堅調に推移すると予想しています。

2012年以降の動向の中では、世界市場の半分を占める中国市場がどのような状況で推移するかが大きな関心事となります。昨年以降、足踏みを続ける中国経済ですが、沿海部の投機的な住宅投資が減少する一方、圧倒的多数を占める地方都市部の住宅着工意欲は潜在的に強く、公共投資以外の民間の固定資産投資も、着実に増加を続けています。物価上昇率も落ち着きを見せ始めており、金融緩和が進めば、中国市場は徐々に回復していくと予想しています。中国市場は、今後、爆発的な急成長から着実な安定成長路線にシフトしていくと想定しています。

中国を除くアジア圏、とりわけ自立的成長を続ける東南アジア諸国も、世界景気の低迷や、中国の景気減速などを受け、資源価格が伸び悩んでいる他、輸出の減少などの兆候もあるものの、それを補う自立的な内需拡大も想定される為、安定的な成長を続けると想定しています。

米国は、力強さには欠けるものの、失業率の低下、企業マインドの改善などがあり、回復基調を維持していくと想定しています。欧州は、緊迫した金融危機から脱したものの債務問題は依然危険を抱えており、各国の緊縮財政政策が継続される為、本格回復はもう少し先になると想定しています。

コベルコ建機グループでは、2010年度からスタートした『中期経営計画<2010~2012年度>』の最終年を迎えます。中期経営計画で掲げた『グローバル化の推進』、『技術開発力強化』、『ものづくり力強化』という課題の総仕上げを、本年本格的に稼働を開始するGECと、最新鋭の五日市新工場を核に推進してまいります。また、本年の早い時期に次の時代に備えた新しい中期経営計画の策定に取り掛かり、本年度中に纏め上げていく考えです。

<2012年度通期の見通し>

2012年以降の全体感は上記の通りですが、2012年度に関しては、欧州経済の先行き不安、為替の動向の不透明感もあるものの、国内や東南アジアなどの新興国が堅調を持続し、北米地域も穏やかに回復してくることから、全体としては堅調に推移すると予想されます。

具体的な予想については、不確定要素もあるため、公表を差し控えます。

以 上

平成24年3月期 決算業績概要

会 社 名	コベルコ建機株式会社	TEL： 03(5789)2111
代 表 者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親 会 社 名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率：80%)	
	CNH Global N.V. (当社株式の保有比率：20%)	

1. 平成24年3月期の連結業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	307,159	1.9	23,200	17.7	22,865	13.1	4,488	35.1
23年3月期	313,143	46.1	28,186	255.8	26,303	270.7	6,920	-

	1株当たり当期純利益
	円 銭
24年3月期	14 03
23年3月期	21 62

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期	370,543	56,995	10.8
23年3月期	285,065	48,301	12.6